

Triage誕生の歴史を災害医学の観点から再考する

(中尾博之ほか：日本救急医学会雑誌 2016; 27: 139-146)

2019年3月8日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

はじめに

triage といえば simple triage and rapid treatment (START) method が有名である。一般的には本邦での triage は、Napoléon 時代の軍医 D. J. Larrey によって開発されたと紹介されている。しかし、triage に関わる書籍に出典が示されているものは少なく、triage という概念が発案された経緯やその背景を系統的に記載した文献はない。そこで国内外の文献に示されている triage の起源を調べ、本邦での triage を再認識する。

Triage の語源

triage は、フランス語に語源をもつと言われている。その動詞形である trier について調査すると、12世紀の Gallo-Romance 語の trière にさかのぼることができ、trià + eur に分かれる。これを日本語にすると、“3”と“砕く”となる。コーヒー豆の選別では3段階に分類されていたことが分かっており、triage の“3”に符合する

Triage 誕生

triage の誕生は Napoléon のエジプト・シリア遠征で戦闘内容に変化が生じたことに起因すると考えられる。シリアで連戦をしたフランス軍は、1799年5月に Akko を包囲したが、悪天候、不潔な環境とペストの流行によって、最終的には、派遣された兵士の約 1/3 が病死または戦闘で死亡し、そのほか多数が逃亡したという。そこで、救命を最優先する医学的な観点よりも、兵力として戦場に復帰できる傷病兵から治療を優先して開始する戦力維持という観点から治療順位をつけた方法が「Napoléon 式 triage」である。Napoléon 式 triage は、その後「勝つための triage」として知られるようになり、各国の戦場で実施されるようになった。

Triage の運用

1806年 Jena での戦いで、博愛的な triage として敵味方・階級などの区別なく、医学的に処置が必要な人を優先して、傷病者を重症度別に 3 つに分けて治療を行うシステムを Larrey が発案し、フランス軍は初めて実戦で実施した。3 つに分類する方法は、混乱している現場で細かく分類せずに素早く危険地帯から離脱する工夫と思われる。1812年ロシア戦線では Larrey は triage をシステム化していたことから、triage を「改良した」、「体系化した」とされ、Napoléon 式 triage 法を純粋な救命のために近代化させたとと言える。

起源から考察した **Triège** の本来の意義

戦場での **triège** と、危険にさらされにくい災害現場で行われる **triège** で分けて考える必要がある。Napoléon 時代は危険な現場からの **évacuation** (退避, 撤退) に重点が置かれているので、搬送するための準備というよりも安全のために **triège** が行われた。救護者にも強く危険が及ぶ事例では **évacuation** を重視した **triège** を考慮する必要があり、分類数を少なく抑えるべきである。しかし、**évacuation** よりも治療を重視し、危険が救援者に及びにくい場合には分類数を多くして、より適切な医療水準で対応することも有用である。

また、Larrey が考案した重症度分類は 3 段階であったが、**START method** では 4 段階である。さらに旧英国連邦を中心とした国々で採用されている **Cape triage score 27** は 5 段階に選別され、4 段階分類以外に救命の可能性が低く医療人員や資機材などに余裕がある場合に分類される「判定保留」が追加されている。これは、現場の安全性上必要な範疇ではなく、医療の効率化から整理するために、より詳細な分類が必要になって作られたものであろう。

結語

歴史的には戦場で非常に多くの傷病者を即座に選別し、現場から離脱するためには 3 つに分類することに強い意味があったと推察する。傷病者が医療提供者に比べて圧倒的に多い災害現場では、現場に留まる時間を最短にするために避難することを優先して医療資源を提供できる現場救護所に早く搬送することが、災害医療全体を考えると有利となる。

triège は、①Napoleon 式 **triège** による戦争に勝つための **triège**, ②敵・味方, 貧富の差, 社会的地位などの区別なく医学的な観点から人道的に行われる **triège**, ③非災害時に救急医療領域で行われる **triège**, それぞれで単語が違う意味で使用されるようになってきた。現代の災害時に実施される **triège** は、②が当てはまる。それぞれの時代において医学用語としての **triège** の持つ意味が変遷してきた。

Larrey は早く連れ帰り治療を受けることを創案し、救命率を飛躍的に向上させた。より簡素に 3 段階に分けることによって、災害現場での犠牲者を最小限にすることができたのであろう。**triège** の手順が単純・容易であり、**triège** の次の手順となる避難・搬送が同時に考慮されることが重要である。**triège** が災害訓練の代名詞のように多用されているが、現代でも **triège** は避難や患者受け入れなどの過程につなげるための作業であるということを認識する必要がある。一般に「分類」をするときには目的が常にあり、その目的に沿った基準で分類がなされる。したがって、常に何のために分類をしているのかよく考える必要がある。

用語は、時代とともに本来の意味は変遷していくが、原点を心得ておくことは重要である。災害医学においては、歴史的背景を学術的に追究することによって、成り立ちや創出された学問体系を構築することが重要であろう。